

いい経験

→ いいところを引用したわ

①

遠くから来た自然の性質を上手に利用しながら水を治めようとしたのが日本人の川との付き合い方の一つだ。昔の日本人の川との付き合い方は、今とは全くちがった。洪水をも受け入れ、水が一度に川へおしよせまいよう心をくだいた。洪水を起す川の水田を開くといふことは、洪水を起す川の水田がむちくちかになることを意味する。昔の農家の人々は、米作りとは、ただの仕事というだけでなく、生き延びいくことそのものである。

六月に学校で米作り体験をした。稲を一つずつ手で植える作業は想像より、はるかに大変で、中腰の姿を保つのが苦しく、足元はドロでコンクリールがきかない。暑さの厳しさを汗まじれ、ドロまじれで植えた。

一月後に、担任の先生が稲の様子を見てきたけど、稲が一本のものもあられは五本以上のものもある。たよりの苦味して報告してくれた。

→ 全体の字数を考証 二二は用略



→ 二つはよく考えてね

あれだけ努力して植えたのに、そのぐら  
の出来か少し残念に思う気持ちと、昔の人  
はどれだけ苦勞して田植えをしていたのだろ  
うかと、尊敬の念を抱いた。それほどまで大  
切な作業を無駄にしてしまつ洪水を受け入れ  
自然と付き合ひには、人間も、ときにはがま  
んしなければならぬ。そしてがまんの先に、  
洪水は巻分に富んだ土を山から運んで、土地  
がうるおう事に感謝しながら、生活していた。  
それだけだ。

私はこの本と、田植え体験から人間は、何  
年もの時間をかけて、自然から学び、力を合  
わせて川と共存していったのだと感じた。

感想がすばらしい。

よく考えているね

